

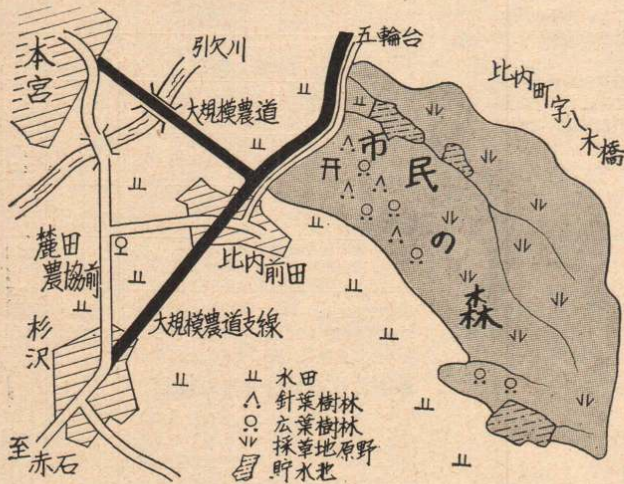
〈9月定例市議会〉

比内前田に「市民の森」つくる

9月1日から開られた9月定例市議会は、46年度の補正予算案などを審議し、9月8日、議案9件を原案どおり可決、決算2件と請願7件、陳情20件は閉会中の審査に付託することを決め8日間にわたる日程を終えました。

こんどの定例会では、「市民の森」の設置や老人医療費支給対象者年齢を75才に引き下げする分の扶助費など、2億3,701万6,000円にのぼる一般会計の補正予算の可決によって、一般会計の歳入、歳出の総額は31億4,290万2,000円になりました。

「市民の森」は2カ年計画で……



公害、自然環境の破壊が広がりつつある中で、豊かな心と健全な身体をつくり、緑の中から人間性をとりもどすため、「市民の森」の造成を計画しました。この計画は、今年度から2カ年事業で、比内前田地区の約30ヘクタールの丘陵地帯を利用して、総額1,200万円をかけて造成するものです。

市民の森に選んだこの地区は市の西南部比内町に隣接し、原野が三分の二をしめる丘陵地帯で、北部には杉の人工造林、ザツ天然林約8ヘクタール、そして、小さな野水池が3カ所もある、変化に富んだ所です。

また、47年度に開通する大規模農道(全面舗装)は市民の森を通ることになっており、これが開通すると定期バスの運行可能、市街地からの距離の短縮などにより、市民の森としては最適な場所とされています。

一方、市民の森にはどのような樹木を植えるか、またキャンプ場、ベンチなどの施設をどのように配置する

選挙管理委員決まる

つぎの方々が新しく選挙管理委員および補充委員に選任されました。(敬称省略)

〈委員〉竹内福哉, 松山 茂, 高松善治郎, 嶋内清一郎

〈補充員〉前田嘉太郎, 藤谷 達, 岡本時也, 細田成信

「峠の家」に大型児童遊園地

一般会計の補正額2億3,701万6,000円のうちから、主な事業等をひろってみるとつぎのとおりです。

- ▲老人医療費扶助の追加 …… 1,350万円
- ▲「峠の家」の大型児童遊園地造成に …… 802万円
- ▲「市民の森」の造成に …… 527万円
- ▲砂利、道路補修材料の購入に …… 300万円
- ▲片山線、舟場線舗装に …… 678万円
- ▲道路改良用地(12カ所)購入 …… 541万円
- ▲小館花、岩本、赤沢線などの改良に …… 566万円
- ▲米代川北線新設事業の追加 …… 5,319万円
- ▲墓地公園の整地工事の追加 …… 1,500万円
- ▲御成町火災復興の物件移転補償費の追加 …… 1,658万円
- ▲釈迎内小など9校の改築、補修など …… 560万円
- ▲矢立地区の給食センター建設追加 …… 375万円
- ▲東中に語学演習装置購入に …… 650万円
- ▲テレビ難視地域解消に(松原地区) …… 60万円
- ▲乳牛、和牛、種豚導入 …… 11万円
- ▲白沢馬場整備事業の調査設計費の補助 …… 300万円
- ▲青少年プールに井戸新設のため …… 128万円
- ▲市立総合病院への補助金追加 …… 3,500万円

かなど、具体的な青写真は現在のところ決まっていますが、こんどの補正予算化された527万円は、500台の自動車収容できる駐車場(6,000㎡)の設置と設計費として樹木植栽事業などの事業費を織りこんだもので、市では、具体的が決まり次第、造成工事に着手することになっています。

澄んだ空気と緑色の森、野鳥のさえずりの中で、子どもたちや老人たちが語り合う場、市民の森の完成は、48年3月の予定です。

鳥潟会館の使用料金決まる

鳥潟会館に関する条例が制定されました。この条例は鳥潟会館の設置、管理、使用料などを定めたもので、公用で使用する場合や公共のため使用する場合は、さらに市長がとくに必要と認めた場合は使用料を減免することになっています。

使用料金は右記のとおりになりましたが、会館使用申し込みの受付は花矢支所で行なっています。

鳥潟会館は、昭和23年に当時の花岡町の皆さんに利用していただこうと、故鳥潟隆三博士が町に寄贈したもので、昭和42年の合併で大館市に引きつがれています。鳥潟博士がその晩年、心血を注いで造りあげた邸宅で、建坪744.15㎡、敷地9,900㎡という、重要文化財に値する、京風づくりのりっぱな建ものです。

鳥潟会館使用料金表

使用場所	使用時間		
	自9時 至17時	自17時 至22時	自9時 至22時
大 広 間	400円	500円	700円
階下和室 (1室につき)	100円	150円	200円
階上和室	100円	150円	200円
茶 室	100円	150円	200円
庭 園	無 料		
暖 房 料	市長が定める実費相当額		

75才から医療費を支給

市では昭和44年4月から、80才以上の老人の皆さんに対し、心身の健康保持と明るい老後生活をおくっていただくため、医療費を支給してきました。

この制度ができた当時は、80才以上の方でも、老令福祉年金、障害福祉年金を受けている方のみが支給の対象となっていました。が、昨年の4月から年金受給や所得制限は一切関係なく、80才以上の方には全員に医療費を支給してきています。

そして、10月1日から支給対象年齢を80才から、75才に引き下げすることを決めた市では、今回の9月定例市議会の一般会計補正予算案に年齢引き下げ分に必要の扶助費1,350万円を計上し、約1,400人の老人の皆さんに医療費のお手伝をすることにしました。

支給方法

10月1日からは、75才以上の方で「老人医療費支給対象者証」をもってれば、どなたでも医療費の給付が受けられます(すべての保険加入者が適用される)

例えば、国民健康保険に加入している75才の方がお医者さんにかかって医療費の総額が1万円かかった場合、国保の給付は7割給付で本人負担は3割ですから、国保(市)負担が7,000円、本人負担が3,000円となり、この3,000円が、老人医療費として福祉事務所から本人に支給されることとなります。

ただし、本人負担分のうち、外来患者の場合は1,000円、入院患者の場合は2,000円それぞれ本人が負担しなければならぬようになっているため、結局、福祉事務所から本人に支払われる額は2,000円になります。また、年金受給、所得制限もありません。

支給対象者証(カード)をもらうには

カードをもらうには、あなたが加入している健康保険証や国民健康保険証と印鑑をもって福祉事務所、庶務係においていただければ、交付することになっています。

東北新幹線を大館に……

弘前市等との誘置促進同盟会が発足

夢の超特急、東北新幹線をわが大館市に通そうと、さる7月16日、市役所で誘置促進期成同盟会を結成し、会長に小畑知事、副会長に石川大館市長、畠山合川町長、関八幡平村長をそれぞれ選び、陳情など誘置運動を展開してきました。

東北新幹線は大館、弘前等の内陸を通すか、八戸市などの海岸線を通すかは、現在のところ国鉄でも決めていないが、わずか3時間という短時間で結ばれるわけで、大館市については秋田県の発展にプラスされる面ははかり知れないものがあるといえます。

こうした中で、さる8月27日、本市を訪れた弘前市長は、市の三役との話し合い、内陸を通すため広域的見地に立ってお互いに誘置運動に結束しよう、という本市の意見に合意したため、9月27日、市民体育館で本県の期成同盟会と弘前、黒石など2市12カ町村で結成している期成同盟会が一つになり、その名も「東北新幹線秋田県ルート誘置促進期成同盟会」と称し新たに誘置運動を展開していくことになりました。

一方、八戸市側でも、9月14日、岩手県北の町村を含めた44市町村で誘置促進期成同盟会を結成したとい



われ、いま強力な運動を展開しつつあると報道されています。こうしたことから、内陸ルートに多くの有利な点があるものの、私たちとしても判断を許さない状況にあるため、今後の秋田、弘前側の結束した誘置運動には、さらに拍車をかける必要があり、市民の皆さんも、今後の誘置運動に注目していただきたいと思えます。(写真)8月27日本市を訪れ、市の三役と話しあう藤盛弘前市長(正面)市側は左から市長と山城、竹内助役

各町内の日程は、協力員を通じてお知らせします